



DI-NOCTM

Architectural Finishes

3MTM ダイノックTM フィルム

Case Study | 2026

企業文化を体現する
オフィスデザイン

フォースタートアップス株式会社



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2026

フォースタートアップス株式会社

企業文化を体現し、麻布台の立地を活かした 「一点モノ」のオフィスデザイン

「(共に) 進化の中心へ」をミッションに掲げ、2016年の設立以来、スタートアップ企業の成長を支援し続けてきたフォースタートアップス株式会社。麻布台ヒルズ森JPタワー31階に入居する同社のオフィスは、2025年度のグッドデザイン賞や日本空間デザイン賞、SBID International Interior Design Awardsなど、国内外の賞を多数受賞し、高い評価を受けている。オフィスデザインにおいては、同社のブランドを統括するエクスペリエンスデザイナー、石橋宗親氏がクリエイティブディレクターとPMを務め、ディレクションを株式会社ソーシャルインテリアが担当し、スペースデザインスタジオ「moss.」およびインテリア・建築デザイン会社「cozzi」がデザインを手がけた。

「The Flagship」と名付けられた本社オフィスは、同社のブランドと企業文化を体現する場所として位置付けられている。起業家やスタートアップ企業で挑戦する人々を出迎えるエントランス空間では、オフィスのデザインコンセプトを表現する素材として、3M™ ダイノック™ フィルムが重要な役割を果たした。同社の石橋氏と、cozziの片山恵一氏に、オフィスデザインに込められた思いを聞いた。



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2026

フォースタートアップス株式会社

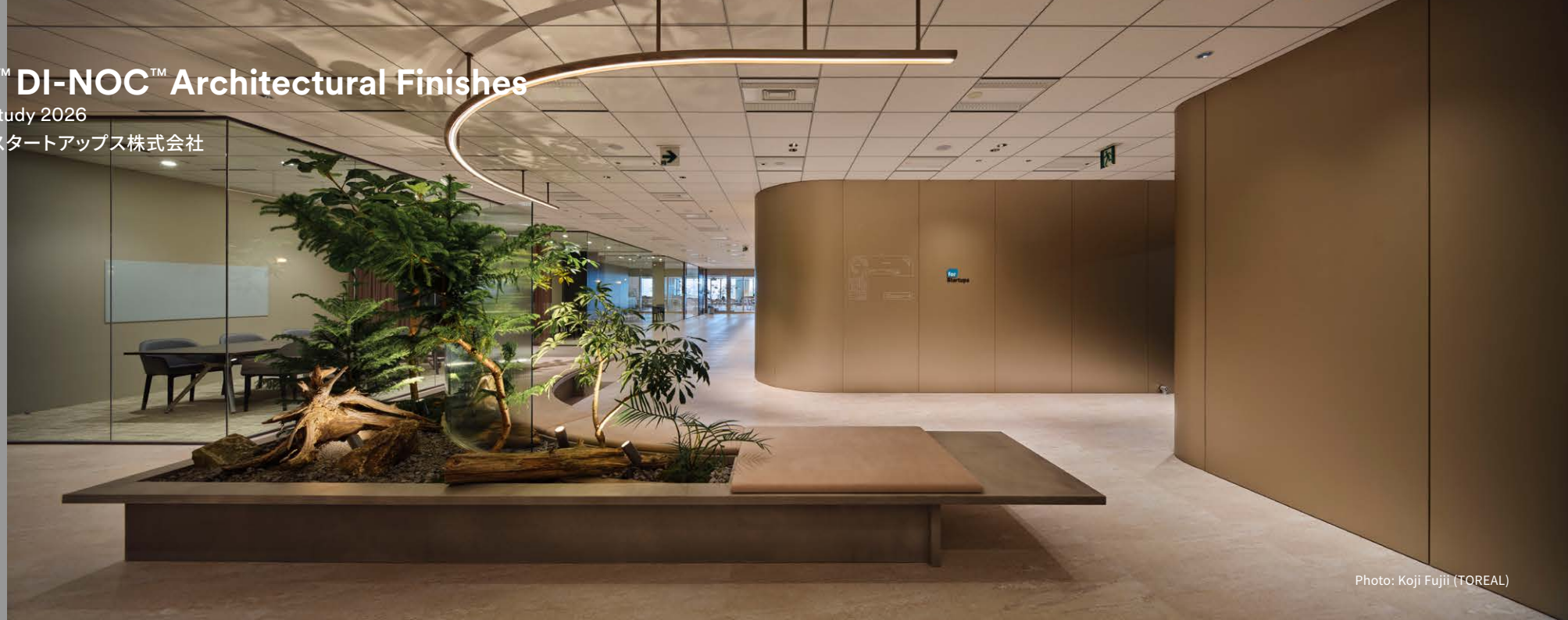


Photo: Koji Fujii (TOREAL)

この場所にしかない「一点モノ」のオフィス

同社にとって会社設立以来3度目の移転となる麻布台ヒルズへの移転プロジェクトを進めるにあたり、石橋氏は空間デザインを担うパートナー企業を探すコンペを実施。提案依頼書を作成する際には、地域固有の芸術を意味する、「サイトスペシフィックアート」をキーワードに掲げたという。「以前、『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ』のWebサイトのアートディレクターを担当していた際に、総合ディレクターを務める北川フラムさんから教えていただいた言葉です。大地の芸術祭では、開催一年前からアーティストが現地を訪れ、地域の方々と共に作品をつくります。それはその場所でしか生まれない、一点モノのアートになる。ベンチャーキャピタルの方々が集う麻布台の街の特徴と、光と風が通り抜ける区画を活かした、一点モノのオフィスデザインであることを感性要件として盛り込みました。」



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2026

フォースタートアップス株式会社

起業家の航路を照らし、空間を染め上げる化粧フィルム

コンペに臨んだ株式会社ソーシャルインテリアは、オフィス名である「The Flagship」にちなみ、スタートアップ企業の挑戦者たちがたどり着く場となり、船出する人々の道しるべとなるオフィスを目指すべく、「ザ・ランドマーク＝陸標」をコンセプトに掲げた。コンセプトを具体的なデザインに落とし込んだのは、デザイナーとしてmoss.の志摩氏と共同でプロジェクトに取り組んだcozziの片山氏だ。

コンセプトを表現する空間デザインを検討するにあたり、片山氏は「未来」「集まる」「染まる」「伝える」をキーワードに掲げたという。エントランス空間からオフィスの中心となる円形広場をつなぐ通路には、メタル調のダイノック™フィルム ME-2265を使用。当初は鋼板の使用を提案していたが、物価高騰により予算を大きく上回っていたため、代替案としてダイノック™フィルムを選択した。金属のリアルな表情と、光を反射する光沢のある質感が、「未来」「染まる」のキーワードを表現する上で大きな役割を果たしたと片山氏は語る。「訪れる方々の航路を照らし、未来に向けたコミュニケーションを誘発すると同時に、床に当てた照明の反射光が壁面を染め上げ、空間全体に奥行きを生む効果を発揮しています。ほぼすべてのサンプルを取り寄せてプロジェクトメンバーの全員で色を検討していたので、『これだ』と思えるこの色が見つかった時は嬉しかったですね。」



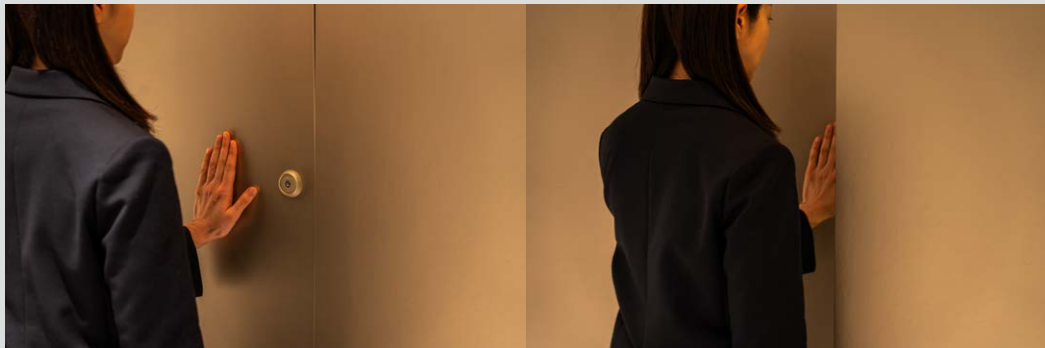
3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2026

フォースタートアップス株式会社



エントランス空間の右手には会議室につながる隠し扉を設けており、来客の人々を驚かせる仕掛けとして表現する上で、メンテナンス性の高いダイノック™フィルムの使用が必要不可欠だった。「本物の金属を使用すると、どうしても手で触れた時の汚れが目立ってしまうのですが、ダイノック™フィルムの採用によって、壁の一部がドアになっているという意外性を表現することができたと思います。」





空間デザインを引き立てるダイノック™ フィルムへの期待

「同じ美意識を持つチームメンバーと、有機的なコミュニケーションを重ねることができたのが、このプロジェクトの成功要因だったと思います」と、石橋氏は国内外のアワードを受賞したオフィスデザインの過程を振り返る。円形広場では年間100回以上もの起業家向けイベントが開催されており、自分たちの仕事に誇りをもてるオフィスとして、企業文化やデザインコンセプトを来客の人々に語る社員たちの姿が日々見られるようだ。

「僕はお客様の考えを大事にしながら、しっかりとアウトプットできるデザイナーになりたいと思っているので、社員のみなさんがオフィスにプライドを持ってくださっているのは嬉しいです」と、仕事への手応えを語る片山氏。同時に、ダイノック™ フィルムを使用した今後の空間づくりの仕事への期待を明かした。「リアルな表情が気に入ってこのダイノック™ フィルムを選んだのですが、こんなにも空間を引き立ててくれる素材なんだと、あらためて化粧フィルムの可能性について気付かされました。メンテナンス性と耐久性を担保しながら、カラーの選択ひとつで異なる表情が生み出せるのが化粧フィルムのおもしろさだと思うので、今後もダイノック™ フィルムを使った空間デザインにトライしていきたいと考えています。」



右) フォーススタートアップス株式会社
Experience Designer/Brand, CEO's Office 石橋宗親氏

左) 株式会社cozzi
代表取締役 片山恵一氏

3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2026

フォーススタートアップス株式会社

CASE STUDY SUMMARY



Challenge:

「TheFlagship」と名付けられたオフィスのストーリーを伝えるデザインコンセプト「ザ・ランドマーク＝陸標」を表現する上で、「未来」を感じさせる素材の選択が求められた。

当初は銅板の使用を想定していたが、物価高騰により予算を大きく上回っていたため、同じ質感と表情を持つ建材を選ぶ必要があった。

Benefits:

スタートアップ起業家を迎えるエントランス空間にダイノック™ フィルムを使用することで「未来」を表現し、企業文化を体現するオフィスデザインに大きく寄与した。

金属のリアルな表情と質感が空間を引き立て、光沢感のある表面が空間に奥行きを生む効果を発揮した。

Product Selection:

3M™ ダイノック™ フィルム

- ご採用決定の際には、あらかじめ在庫状況をお問合せください。
- 当社製品の仕様及び外観は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
- 本書に記載する事項は、すべて当社が信頼する情報に基づいていますが、その正確性もしくは完全性についての絶対的な保証をするものではありません。
- 使用者は使用に先立って、自己の使用目的及び用途に当社製品が適合するか否かを判断し、それに伴う危険と責任をすべて負うものとします。
- 当社及び当社製品の製造者の責任は、当社が別途定める条件に基づき、不良であることが証明された製品の交換、もしくは当社製品のご購入代金の返金だけであり、いかなる場合であってもそれ以外の責任は負いません。
- 上記内容と異なる保証並びに本書に記載されていない事項及び推奨は、当社及び当社製品の製造者の権限を有する役員が署名した文書によらない限り、当社では何らの責任も負いません。

3M、DI-NOC、ダイノックは、3M社の商標です。



スリーエム ジャパン株式会社

<http://go.3m.com/dinoc/>

©2026, 3M. All Rights Reserved.

カスタマーコンタクトセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-012-123**

9:00-12:00、13:00-17:00／月～金
(土日祝年末年始は除く)